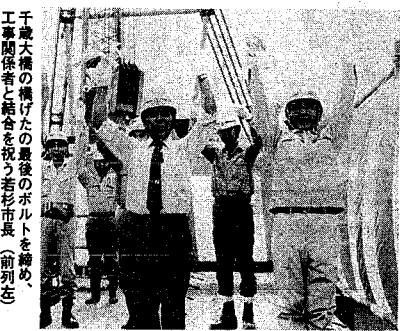


人口	463,040(前月比+45)
男女	226,645(男+38 女+7)
世帯数	150,479(前月比+16)
59年7月末現在	

発行日	毎週日曜日
発行所	新潟市役所 新潟市西通6番町 8 6 6 電話 (28)1000
編集	企画部広報課
印刷所	鶴第一印刷所

千歳大橋 橋げたがドッキング 「文化のための1%システム」を導入



千歳大橋の橋げたの最後のボルトを締め、工事関係者と結合を祝う若杉市長(前列左)



運動も日常の健康管理に欠かせません。一昨年の老人スポーツ大会がら(写真と記事は関係ありません)

ボケ老人

大山台ホームで短期保護 相談は保健所へ

深夜でもなく歩き回ると、異常行動があるボケ老人の増加が深刻化しています。市大山台ホーム(大山二)では、このほどボケ老人の短期保護施設が完成し、今月中の受け入れを目標としています。既に六月から実施している東、西保健所の老人精神衛生相談と合わせ、これで一応市のボケ老人対策がスタートします。

完成した施設は、同ホーム 週間に保護が必要で場合、一階に空室、防音室を施し、週間程度受け入れられるもので、たかさ約二十平方メートル(九坪) 定員は二人です。同ホームでは、今月中の受け入れを目標として、人は六十歳以上で老齢者約一階に空室、防音室を施し、週間程度受け入れられるもので、たかさ約二十平方メートル(九坪) 定員は二人です。同ホームでは、今月中の受け入れを目標として、人は六十歳以上で老齢者約

ボケ老人の深刻さ

現在、市内のボケ老人は、約三千人のうち、四・三%ほど、約千八百人いると推定されています。このうち深夜でもなく歩き回り、異常行動があるボケ老人は約四百人とみられています。また原因を早く発見すれば、ボケを最小限に食い止めることができます。

日常の健康管理と早期発見

ボケないためには、原因となる脳卒中などを防ぐことが、日常の健康管理が大切です。また原因を早く発見すれば、ボケを最小限に食い止めることができます。

暖かい介護と十分な観察

老人のボケには、家族の暖かい行き届いた介護が大切です。またボケ症状を正しく理解し、十分に観察していくことも必要です。

老人精神衛生相談

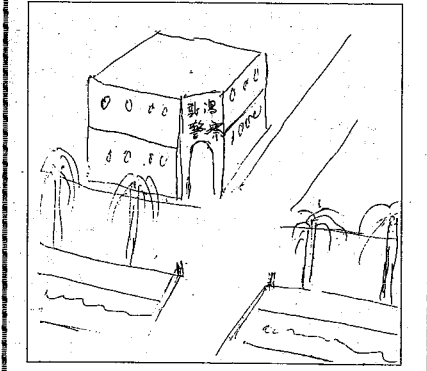
東、西保健所の六月から八月までの家族の相談(十八件)では被害妄想や失禁、家族への嫌がらせなどの内容となっており、介護のやり方、先々

乳妊産婦に医療費を助成

市では、母子保健の向上と福祉の増進のため、妊産婦・乳児の医療費を助成しています。助成後の自己負担の額(医療機関ごと)は、外来……一月について四百円(医療機関ごと)入院……一日について三百円(二カ月を限度とし、医療機関ごと)

ボケ老人の異常行動

- ボケそのものによるもの
 - 風邪のからだき・迷子に手
 - しまい忘れて、ないと騒ぐ・手洗いを汚す・不潔になる
- 意識障害によるもの
 - まとまりのない活動・深夜あてもなく歩き回る・不眠・幻覚・興奮・大声をあげる
 - 妄想、幻視の影響によるもの
 - 被害・攻撃・おびえ
 - 情緒、人格障害などによるもの
 - 乱暴になる・ひねくれる
 - やがらせ・反発・拒絶的・同じ過激、自傷・うそをつく・拒食・過食、異食・性的異常行為
 - やす・盗み・のぞき



私の散歩道 ④ 年寄りの思い出

昭和七、八年ころ、私が十四、五歳の時、西郷には畑があり、柳の木が植えられていた。そして、今の三越パレットの所に、新潟警察がたつた。戦後、小林アボがで、今は三越パレットになり、正面入口にはライオン像が置かれ、立派になった。今も、畑も柳も年寄りの思い出だ。

石橋 賢司(64歳 秋葉通三)

私の散歩道集巻中、あなたのお好きな場所をスケッチし、二百字以内の文を添えて応募して下さい。西郷通六へお送り下さい。採用分には薄給を贈呈します。

高度情報社会と市民生活を考える

家庭生活の視点から、これらに变化するのかを考える集いです。特に、「ご婦人の参加」をお待ちしています。

日時 九月二十四日午後二時(四時十五分入場無料)

会場 音楽文化会館

内容 講演：「二十一世紀の社会と暮らし」今野由梨(生活科学研究所長、パナソニック)

問い合わせ 企画調整課へ

市役所	28-1000
教育委員会	25-1000
体育館	67-1821
野球場・テニスコートの申し込み	66-8111
火災の場所を知りたいとき	24-1111
市民病院	41-5151
市民センター	86-1034
東保健所	43-5311
石山地区保健センター	86-4450
鳥屋野地区保健センター	85-2373
鳥屋野地区保健センター	59-7332
北西保健所	66-5171
西地区保健センター	62-3405
坂井輪地区保健センター	60-3255
市医師会休日急患診療センター	31-4133
県医師会休日急患診療センター	83-3030

古文書解説講座

時間 午後6時~8時
会場 中央公民館
定員 200人(先着順)
申し込み 9月16日までに往復はがきに住所、氏名を明記し、郷土資料館(〒951 緑町3437)へ

月日	内容	講師
10-1	絵巻を読む	池 啓宗 郷土資料館副館長
10-8	風俗絵巻「あまのふり」を読む	奥野 邦雄 郷土資料館副館長
	農具絵巻 一件文書を読む	佐野 昭 元
10-15	川村行状記文書を読む	長谷川 隆 郷土資料館副館長
	所行所入勅書を読む	三村 哲司
10-22	徳川川村一休探案文書を読む	鈴木 隆
	北門時代	山上 卓夫 新潟県高校
	松崎舎文書を読む	渡辺 秀英 元新大講師
10-29	川下川文書を読む	大沼 淳 郷土資料館長

電話案内

「下水道」の街頭相談
下水道についてどんな相談も結構です。ぜひご利用下さい。
日時 九月十二日午前十時午後五時
場所 市役所前 水道局(西保健所隣)